

2025 年度第 1 回あいち森と緑づくり委員会 発言要旨

I 日 時 2025 年 6 月 30 日（月） 10：00～11：30

II 場 所 愛知県庁本庁舎 6 階 正庁

III 出席者 あいち森と緑づくり委員会委員（9 名出席）

県（事務局）農林基盤局、総務局、環境局、都市・交通局、建設局

IV 議事等は以下のとおり

1 開会あいさつ <農林基盤局長>

2 内容 <事務局 参考資料、資料1、資料2により説明>

（1）2024 年度事業実績及び 2025 年度事業計画について

（2）2024 年度事業の取組状況について

3 意見交換

【委員】

都市緑化推進事業の緑の街並み推進事業について、個人邸の植栽費用等を半分補助すると思うが、結構費用がかかると思う。個人邸だと外からしか見られないため、皆さんに広く見ていただくことが難しいかなと思う。例えば、少しその費用を身近な緑づくり事業にまわしていただき、もっと広く県民の方に花やみどりと親しんでいただけるような事業を増やしてはいかがでしょうか。

【事務局】

身近な緑づくり事業については、市町村からご要望いただいているものは、基本的に十分な交付金を配分しております。今、ご意見頂いたような、より多くの方に親しんでいただける部分の費用を抑制し、個人邸に支援しているということは無いという状況です。一方、緑の街並み推進事業についても、なかなか個人邸の中に入って見ていただくことは難しいですが、「本事業を活用してこのお庭の緑化を行っています」という主旨の看板の設置を義務づけており、少しでも周辺の市民の方に本事業の成果が伝わるように努めているところです。

【委員】

次世代森林育成事業につきまして、森林育成において地域性への配慮というのはかなり重要になっているという認識でいます。そういった中で、例えば豊田市立岩町と設楽町の神田でクヌギだけを植栽したという事例があります。これは現地の方が、クヌギを植栽することを希望されてそうされてるのか。或いは、それを促したのかとか、どういう流れでその樹種が選定されるのかというのをお聞きしたい。クヌギを基盤的に植えていくところに抵抗があり、ここは今一度見直しを図っていくべきと考えています。アラカシ、アベマキなどがこの地域の生態系としては合っていると考えています。

【事務局】

クヌギの植栽については所有者の希望という形と、地域の林業普及指導員との相談の結果と理解していますが、今は広葉樹の植栽の希望が多いというのが実情です。地域性については、県内、或いはこの周辺地域でとれた種から育成された苗が主に入っているのではないかと考えていますけれども、そういった地域で育つものを植栽しているという状況ですので、また引き続き地域の林業普及指導員と相談しながら進めていきたいと思っています。

【委員】

クヌギについてはいろいろ意見があるんですが、やはりいろいろなところで調査をしても県内には自生のクヌギ林ってないんです。だからそこは見直しを図っていくべきかと考えます。里山林整備事業について、海上の森の方で今後の里山林保全活用の人材育成の様々なコースを開かれてるということで、里山保全の次世代育成がすごく重要になっていますので、すごい期待される場所です。実際にここでコースを修了された方々が、どういうふうに現場で活躍されているのか。次の活躍の場までの筋道みたいなものが整理されているのかっていうこと、卒業された方同士が交流していくというようなグループ・組織を作っているというようなことがあるのか、そこを伺いたい。

【事務局】

海上の森アカデミーの方で行っているコースについては、すでに活動されている方、活動に興味がある方など様々な方がおみえです。修了された方については、提案型里山林事業の中で、アドバイスなどを行ってもらったりとか、そういった形でも、ご参加いただけるように、情報提供等はしております。

体系的に団体さんの構成とかに繋がってるかという点、そこまではできておりませんが、今後はそういった観点も含めて検討していけたらいいかと思います。

【委員】

生態系ネットワーク形成推進事業ですけど、実際に創出されたビオトープが地域の生態系ネットワークに対してどう貢献してるかっていうところの視点でも評価されているのか。

【事務局】

生態系ネットワーク形成事業につきまして、この交付金事業とは別にモニタリング事業というものを県の方で行っており、例えば、どこかで生き物を見つけたよっていうものを県民の方に投稿いただいて、それをマップ化するという事業を行っております。

今まだそのデータを収集している段階ではありますが、それらの成果を取りまとめて生態系ネットワーク形成事業の成果を確認していきたいと考えております。

【委員】

愛知県で生態系ネットワークのポテンシャルマップを作られていると思うが、ああいったものとの関係性というか、今回作ったところで、そういうものが達成されるのかどうかとか、そういう見方をすると非常に充実してくるんじゃないかと思いました。

【事務局】

ポテンシャルマップと齟齬のないように進めたいと思っております。それも含めて成果の取りまとめを進めたいと思っております。

【委員】

広葉樹林化すると手入れがいらなくなるのですか。広葉樹林でも手入れしないと周囲に迷惑をかけることもあることを山主さんは理解しているのですか。

【事務局】

次世代森林育成事業でも、所有者さんが広葉樹を植えるという希望もあったりして少し増えていますが、広葉樹を植えたままでは、周りから違う樹種も生育してくるし、草も生えてくるということなので、やはり何らかの手入れをしないと、成立しないと考えています。あいち森と緑づくり事業の次世代森林育成事業では、植えた後の保育管理についても支援をすることで、広葉樹を植えても次の世代の森林が育つように、支援をしているところです。

【委員】

場所にもよると思いますが、間伐材を搬出するとしなくて、費用にどのくらいの差があるのですか。利用できるものはしたほうがいいと思うんですが、それによって間伐できる面積が減ってしまうということなら、どちらをどう取ったらいいかというバランスはどうやって考えて決められているんですか。

【事務局】

第1期事業計画のときは伐捨間伐がメインだったのですが、1ヘクタール当たり大体50万円超えるぐらいの単価でやっていました。第2期になって、搬出も含めたライフライン伐採をして材を出すようになると、1ヘクタール当たり150万円かかってきたり、2倍とか3倍ぐらいの費用が掛かってくるケースもあります。現場それぞれで費用は違いますので、一概には言えませんが、1つの事例としてはそれぐらいの差があります。面積の割合については、今のところライフライン伐採の要望の方が非常に多いので、そういったところを重点的にやらせてもらっているところですが、間伐の事業全体で18億円ぐらい予算がありますので、全体の予算を見ながらライフライン伐採もやりつつ、伐捨間伐もやって、間伐面積もなるべく達成できるようにバランスを見ながら進めさせ

ていただいているところです。

【委員】

ライフラインのところは、急いでやっついていかないと、問題が起こってからでは何ともならないと思いますので、費用との兼ね合いはあると思いますが、頑張っやっていただけたらなと思います。

例えば先ほどの病院を作るというところにも大きく費用を出されてると思いますが、こういう場合は、例えば普通にコンクリートで作った場合と、木造で作った場合の差額分ぐらいがその補助として出るということですか。例えば公民館とか学校とかだったら分かるんですが、個人に近いような病院だったら、そういうところに出す以上、理由が必要だと思います。費用はどのぐらい出していて、その効果ってどのくらいあるんですか。

【事務局】

まず病院とか、そういったものに昨年度、実際に補助を出しているわけですがけれども、個人の、確かにその企業の資産になるものではあるんですがけれども、この事業の趣旨として県民の方たちが見たり、木造であることを知ったりすることで、愛知県の本のPRになるものということで、この事業を進めているところです。木造であれば、木造の部分の費用の半分以上ということで、補助を出しているところです。

ものにもよってくるんですが、一般的に今補助しているもので多い物件でいきますとコンクリートで作るよりも木造の方が安いぐらいかもしれません。例えば平屋ですとか、2階建て、3階建てぐらいまでだと、もちろん規模にもよるんですが、木造の方は実際には基礎が小さくて済むんですね。上に大きなものを建てるとう基礎が大きくなってきますので。また、施工期間がコンクリートですと養生期間をとったりして、木造の方が期間が短いということがあります。小規模であれば木造の方が安い場合が結構あります。

【委員】

木造の方が安いということを一般の人がもっと知っていれば、もっと木造で建てるので、その部分を強めにPRすればいいんじゃないかなと思いました。

【事務局】

木の香る都市づくり事業の採択に関しては、あくまでもPR効果の高い、例えば病院ですと、一般の方々が訪れて、こういう病院いいなと思っていただければ、そういう面に関して補助してもいいんじゃないかということです。基本は木造部分の2分の1が上限なんですけれども、こういうのを木造化して、県の本材をPRしたいという、いろいろな提案を応募のときにいただいて、この事業で補助することによって、どれが効果的かというのを、学者も入れた選定委員会の中で選抜しながら、いろいろな提案がある中で、いやここはもうちょっと額減らそうかなとか、そういうのを委員会の中で決めていただきながら、よりPR効果が高いところを助成することによって、そこに訪れた皆さんが、

木を使いたいなと思ってくれるような中で事業を進めています。個人の木を使うことに
対して支援してるわけではなく、そこに木を入れることによって、さらに効果が広がる
だろうということでやっていて、個人の資産を増やすという感覚ではないということだ
す。それから、今県では、愛知県木材利用促進条例というのを作って、今年度で4年目
になるんですけれども、そんな中でももちろん公共施設は、県が決めて、県とか自治体が
決めて使いましょうと言って使うので進めやすい。なかなかいろいろなところが進まな
い部分もあるんですけれども、公共施設はもうすでに進めようということで動いてます。
住宅も大半が木造なので、今は民間の事務所、それから商業施設、なかなか木造が進ん
でないところを進めたいと考えていて、そんな中でどっちが安いという話も出ましたけ
れども、こういう建物なら木造の方が安いというような調査もして、取りまとめており
ますので、またPRもしていきたいと思います。皆さんが木造の方が高いんじゃないか
と思われてるところで、住宅は木造が進んでますが、広い空間を作るところに関しては、
木造ではやりにくかったり、考えもせず当たり前に鉄骨でやってしまうところとかがあ
るので、特に小規模なものであれば、そういった建物は確実に木造の方が安いので、そ
んなこともしっかりPRしていきたいと思います。今回、森と緑づくり委員会というこ
とでこの事業に限った説明をさせていただいていますが、県の政策としては木材利用を
進めるために、そんなこともやっておりますので、またご承知いただければと思います。

【委員】

皆さんが見ればいいなと思ったので、何とかハウジングセンターとかで、愛知県産木
材の家みたいなのを出したら、家を作ろうと思ってる人が来るので、効果的かと思いま
した。

【事務局】

住宅は木造が多いので、その中で愛知県産木材というときは、そこは作る側の人達に愛
知県産木材を使ってくださいというお願いをしつつ、以前は愛知県産木材を使うと、補
助を出すこともしていました。ただ、コロナの時などの財政の厳しい特別な事情がある
ときに、経済対策としてやらせていただきますけど、継続的にそういうものを続けるの
はなかなか難しいのかなとは思ってます。

【委員】

はい、ありがとうございます。

【委員】

搬出間伐が伐捨間伐に比べたら3倍ぐらい手間がかかるという説明がありましたが、私
も伐採して、丸太にして出すところまで作業すると、その3倍の日数がかかるので、さ
っきの説明は実感的に合っていると思います。愛知県は700万人の人口があって、50万
ヘクタールの面積があります。森林面積が20万ヘクタールで全体の約4割、人工林は

10 万ヘクタールでその半分です。労働力人口は愛知県が 400 万人ぐらいで、愛知県で林業で働いてる人は 400 人いればいい方なので、ボランティアとかたまにやる人まで全部入れてもせいぜい 800 人で、1 万人に 1 人しか林業で働いてないんです。だから、愛知の木で家を建てるっていうことを考えても、どこで木を伐って、どこで材を買えるのということと言うと、まだまだ非常に厳しいと思っています。岡崎市は、市と半官半民で地域商社を作って、木材の搬出をした後に、商社として木材を製材で板にしたり、柱にしたものを蓄えて、それを工務店さんとか建築士に宣伝しながら販売するというようなことをやりだしてます。そういったことを積極的にやっていかないと、愛知県産材を欲しい人が増えても、出す人がいないじゃいかんし、出す人が増えたけど今度買う人がいないでは困ります。岡崎で木の駅プロジェクトの委員として、実際作業もやってるのですが、一番今切実なのは、出す意思があっても、道がないから出せないことです。市の予算も 4 月か 5 月で予算を使い切っちゃって、もう補助できないという状況もあります。今年度下半期の作業道補助の補正予算を立てて、1 メートルで 1000 円とわずかなんですけど、ないよりはマシで、3 分の 1 ぐらい費用はそれで補助されれば、やる気にはなります。出す道がないと、木が出ないので、そういったところを、県と市町がもう少し深く掘り下げて、支援していただけるとよいと思います。人工林 10 万ヘクタールの中で、森と緑づくり事業の計画では 10 年で 14,000 ヘクタールですから、全部やるとしたら 60 年かかるんですよ。これは県だけの数量なので、市でもやるなら半分で済むかもしれないですけど、そういった長期的なスパンでこれからも考えていくべきですし、もっともって予算が必要なんです。さっきの説明であったようにライフライン伐採をやると重機を持ってきて、警備員を置いたりして、それこそ 3 倍 4 倍 5 倍と非常に値段が上がってしまいます。そういった作業がどんどんこれからも増えるでしょうし、ライフライン伐採をちゃんとしておかないと、前回委員がこちらへ来られなかったように、倒木がどんどん起きると停電ばかりになってしまうと思います。

【事務局】

労働力の関係については、林業統計書においては、現在愛知県の林業従事者数は大体 550 人程度なんですけれども、2021 年、2022 年は新規の林業就業者数は 40 名程度いて、若手の方がかなり入ってきている状況です。これだけの面積の間伐や木材の生産を進めようとする、当然人手と、スマート林業の推進などの効率化等といったものも必要になるかと思います。予算については、限りがありますので、そこをうまくバランスを取って進めていくのかなと思います。また、道については、県や市町村が整備したりする林道もありますし、作業道については造林事業、矢作川水源基金、豊川水源基金の中でも、そういう作業道を補助する制度もあります。人工林整備促進支援事業の中でも、そういう作業道を入れることに対して補助を出していて、昨年度は新城市内で 300 メートル程度道を入れて、材を搬出しております。300 メートル程度道を入れたことで、材も 200 立方メートルぐらい出ています。人工林整備促進支援事業については、小規模林業経営体の経営支援という一面もあってやっている事業なんですけれども、いろいろなところ

に使っていただいて、道も入れていただきながら、間伐も進めていけたらいいかなと思っています。

【委員】

ライフライン伐採というのは奥地に住む人間にとっては大変重要ではないかと思います。ライフライン伐採に取り組むにあたり、搬出をしないと、材は支障木や障害物になってしまうという大きな問題になってしまいます。ライフライン伐採は搬出を義務づけるような形にしていいただければと思います。5年ほど前の大雪の際には、1週間も停電が続き大変な状況でした。今回も停電はあったものの1日で解消され、普段の生活にもどることができました。この事業はありがたい事業ですので、これからもよろしくお願いいたします。

皆伐は、愛知県全体の問題になっていると思います。皆伐を進めながら、100年たてばまた100年木が増えるということですので、木材利用は大変だと思いますが、しっかり取り組んでいただければありがたいと思います。木の香る都市づくり事業で、新しい工法、集成材など取組が行われているので、積極的に支援をしていただければと思います。次に次世代森林育成事業についてですが、皆伐後の植栽は2020年に取り組まれている少花粉ヒノキ等の植栽を進め、事業の実績を残していただきたいと思います。

【事務局】

ライフライン伐採については、資料2の写真でも示しているとおり、道沿いの材は原則可能な限り出すということで、材が出てこないように搬出しております。少し奥の方は等高線に並行に材を並べて、転がってこないような形で対応しておりますので、基本的には材が出てくる状況にないと思っております。

【委員】

関係人口ということで意見があるんですけど、提案型里山林整備事業の資料のところに豊田市押井町で管理道の整備という写真がついてます。矢作川流域圏懇談会という団体で座長をやっているんですけど、一昨日見学会をしてきまして、この豊田市押井町がもう限界集落に突入しつつあった村なんです。10年ほど前に営農組合を作って、畑、田んぼを全部預かって、法人がそこから借りて、とにかく田んぼをなくさないように維持管理する形を取りました。新しい人が移住してきたら、その田んぼを耕してもらえるようにという取組をした結果、人口が今かなり増えてます。それに加えて、25軒の農家と都市部の330家族が草刈りやお祭りなど交流イベントに参加しながら、1俵39,000円で契約して里山とまちの人が繋がる取組をされています。その延長線上で、これがお寺の上にある森なんですけども、覆いかぶさってきて倒れてくると、お寺がつぶれちゃうからやってみようということでやっているのがこの里山林の整備の事業なんです。30年後でも、ここがずっと保たれるにはやはり人が入ってくることが必要なので、関係人口づくりというのを、林業だけじゃなくて食べるものを一緒に作れば、毎日食べるものが、

一緒に働くことによって作られます。330 家族のうち半分ぐらいが名古屋から来ているそうですが、そういった人たちが定期的にこの村へ来てるので、村の中が非常に綺麗に整備されて、気持ちのいい村になっており、こういったことが愛知県じゅうに広がっていけばいいなという感想です。その中で関係人口を作っていくためには、さきほど小学校の伐採という話がありましたけど、愛知県だけでも小学校で学校林を持っているところは、昔は結構あったそうです。今はもうだんだん減ってるんですけども、各小学校区で、愛知県のいろんな森に例えば 1 小学校で 1 ヘクタールぐらいの学校林の制度を作って、一緒に管理をやっていくとよいと思います。林間学校に来てそこへ行っていろんな仕事をして、キャンプでカレーを作って、一緒に食べ、森の整備もできる、いざとなったら学校の建て替えのときに、その森林の木材を定期的に利用していけると、そういったところまで続けていければ、日本に誇れる愛知がトップの森林の維持管理制度になっていくんじゃないのかなと前から思っている私の夢です。

【事務局】

学校林は県内の小中学校にあたりもするんですが、私が昔いた新城では、作手とか鳳来の山の方の小学校の裏山が学校林になっていて、その整備とかをされていたんですけども、なかなか山の方ですと過疎化が進んで、子供の数が減っちゃって、たしか廃校になってしまっているんです。そのように、なかなかフィールドがあっても使われなくなっている事情もあるのかなと思います。ただそういった森林を活用する手段としては、そういう方法もあってもいいのかなとは思うんですけども、今後、何らかの形で検討とか進めるといいのかなと思います。

【委員】

公でやるのはなかなか難しいので、私たちは学童保育所を愛知県で今 10 ヶ所建てているんですけど、そのうち 2 ヶ所で建てる前から、毎年 8 月に子供たちと保護者で木こり体験をやるんです。そういうところに今度は 7 月か 8 月かに前の森と緑づくり委員だった方のところで彼がアテンドして、今回はバス 3 台で 110 人が来てくれて、自分たちの建物を建てた森はここだよっていうのを、次の世代の子どもたちに見せています。そういうことが続いていくと、僕たちのこの建物ってこの森からいつも来てるんだっていう意識がすごく伝わるんですね。小学校区単位で学校林の制度化等をやれば、森を愛する気持ちが、自然と出てくるし、そこに仕事が生れますし、木造建築で 2 階建て 3 階建てというのは高層建築じゃないけど、中低層のことは、木で作った方が安いってことも今分かってますし、県立高校も含めてそういうことができれば、可能性は非常にあるんじゃないかなと思います。

【副委員長】

地域の人たち、特に学校の人たちが地域資源をうまく活用してそれを循環的に使っていくのが大事だと思うんですけど、うちの大学では、今井森林愛護会という団体とコラボ

で、犬山市の人工林を間伐して、それをエネルギーとして老人ホームやデイケアサービスで使うお湯のボイラーに使ってもらい、それで地域の福祉にも貢献できることを学んでいます。

その木材を地域バイオマスエネルギーとしてより積極的に使っていければ、田んぼも耕して、間伐材も出してという、地域で循環した資源の使用に繋がっていくと思いますので、やはり地域エネルギーとして地産地消のこともちょっと入れて考えられた方がいいかと思います。また、30年ぐらい経った木材を効率的に搬出するためには、あまり太くなりすぎる前に、より効率的な伐採の計画みたいなものをみんなで作っていったり、よりコストの低い搬出の仕方について、地形や林道とかの配置を考えながら、どこを優先的に切ればよりコストがかからないかというような計画図みたいなのをみんなで作っていけるといいなと思いました。

【委員】

人工林整備事業で、100年とかすごい長期的に考えなきゃいけないのがある一方で、ライフラインのところは、本当に今必要なところではやらなきゃいけないというバランスが大変だと思います。ライフラインのうち防災・減災の割合が6、7割で結構高いかなと思ったんですけど、どれぐらいの緊急性のものから優先的にとか、そういう基準というのがどういうものかなというのと、それが他のところよりも優先してお金をかけていくというのでこうなるという根拠などを、何かうまくアピールできるといいかなというふうに思います。

【事務局】

ライフライン伐採に関しては、県の方で委託調査をして、現地の調査をした上で、電線にかかっていたりとか、民家に近いところであまりに危険なところ、緊急度が高いところを優先的にやるように採択をして、実施しております。ただ予算に限りがあるので、その中でも現地を見て、状況確認した上で、進めさせていただいているところです。

【委員】

間伐とかは専門じゃないですが、制約がいっぱいある中で、できることを選びながら進められているところがすばらしいと思いました。

こういった取組については、その場で終わるのではなくて、教育とか、イベントで終わらせないというのが私の中にあります。森林でも何でもそうですが、人が手を入れた場所は人が手を入れ続けるということが大切になってくると思っています。木の香る都市づくり事業は暮らしの中で、いろいろな方が木を感じられるすばらしい事業だと思います。一方で、環境活動の場に木道があって、森と一緒に、木の製品とかは、手を入れ続けなくてちょっとささくれだってきたりとかします。しかし、手を入れたら、本当にいい材で、みんなが温かみを感じられて、循環の中でまわしていける材です。作っておしまいにしてしまうと、もったいないので、木っていいよね、どうやって育てていくんだ

ろうという教育の部分については、うまく伝えていきたいと思いました。
指導者養成の取組も素晴らしいと思います。質の高い指導者が、一気にたくさんは生まれないので、ゆっくり育てていけば、その指導者が一緒に取り組む人たちも増えていて、私たちが育てている森も生きていくし、育った森から持ってきたものも生きてきてという里地里山の循環みたいなものがもう一度生まれてくる、そうすると素晴らしい取組がより一層生きてくると思いました。

【委員長】

人材に関しては、基本的に日本は少子化なので、多分これからもなかなか減っていくのは避けられない部分もあると思います。単純に人手が足りないからというわけではなくて、愛知県はものづくりの県でもあるので、いろんな効率的なやり方であったりとか、あとは林業機械の自動化などの形でやっていくと、また若い人も入りやすい環境はできると思います。そういうところも積極的に林業に関わる、また環境に関わる場所だけではなくていろんな産業も含めて、今はカーボンニュートラルでいろんな企業さんも、積極的にそういうところに関心を持たれてますので、そういうところでぜひタッグを組みながら、そういうポジションを取れる県でもあると思いますので、そういうところを積極的に進めていっていただければと思います。実際にそういうことをやれば、いろんな産業としても、林業は成り立つでしょうし、地域の活性化とかで、なおかつそれを続けていかないと、今コナラとか広葉樹の林になっていっていますので、そういったところにおいても、そのあと獣害の問題などいろいろな問題が出てきますので、多分そういったところも含めて、いろいろな形で効率化して、なおかつ人も育てないといけないので、そういった形でぜひ進めていっていただければと思います。

4 閉会あいさつ <農林基盤局技監>